ひとこと

信頼されるということ

副国際コミッショナー　松平　頼明

私どもは，人間はお互いに信頼し合わなければならないと教え込まれてきましたが，近ごろは新聞などで，たびたび人は信頼できないというような記事を読むことがあります。

人間相互の信頼は口で，知識で教えられるものではありません。ふだん，それが実行され，その結果を見て，それが信頼に値するかどうかを他人が評価してくれるものだと思います。

話はいささか旧聞にぞくしますが，今から21年前，ロサンゼルスの郊外で第3回全米ジャンボリーが開かれました。そのとき，私はロサンゼルスから東南約160㌔程のところにある当時世界一の反射望遠鏡を備えたパロマー山天文台を見学に行きました。車で山を登って頂上に近づくと，ふた抱えもみ抱えもあるヒマラヤ杉が立ち枯れていて，そのそばを通り過ぎました。

アメリカではよく山火事の話を聞きます。こんなところで火事でも起こしたら，たちまち世界一の天体望遠鏡は灰になってしまいます。だから道路には「ノー・ファイヤー」（火気厳禁）という立て看板が立っています。ところが，その中のひとつに「ボーイスカウトは除く」というのに目がとまりました。アメリカのＢＳ隊長は，野外で火を起こすとき格別な注意を隊員に守らせています。だから山火事を起こしやすい所でも，ＢＳに限って炊事することを許可しているというのです。

隊長も隊員も，ふだんからスカウトの〝ハンドブック〟の注意事項を厳重に守っているので，社会の信頼を厚く受けており，この立て看板のような例外的扱いとなっているということを，そのとき案内してくれた人から聞きました。

ですから，たとえひとりのスカウトでも，もし社会から信頼を失う行為を犯せば，たちまちボーイスカウト全体の名誉や信頼を失い「ボーイスカウトは除く」という例外措置は取り除かれてしまうことはいうまでもありません。スカウトの名誉は信頼されることにあるということを，もう一度確かめましょう。

1974. 10

世界スカウト章

ハウス長休 かわら版　第2号 1974.10.5.
毎集稿度刊　編集人　末吉平克

（中村三之助．渡米帰国報告会のお知らせ）

☆ 今年の夏．7月.8月と約2ヶ月間にわたって．私中村三之助は．皆様方のおかげをもちまして．国際キャンプスタッフ派遣計画に参加することが出来．大変多くの貴重な体験をして帰ってまいりました。就きましては．この2ヶ月間の私個人の色々な体験を皆様方に御報告し．少しでも．長休スカウト又．父兄方々のスカウティングの目をより一層世界に向けて広く御理解していただければ幸いかと存じ．帰国報告会を下記のごとく開催致しますので．どうぞ万障繰り合わせの上．御参加下さいますよう希望致します。

弥栄

〈日時〉 第1回（スカウト対象） 10月10日(木) PM 7:00～
第2回（父兄対象） 10月19日(土) PM 7:00～
〈場所〉「ハウス長休」
※どちらかの日に都合の悪いかたは．もう一方の日に御参加下さいましても結好です。

創始者の言葉を味わう

下のカコミの文は、スカウティング フォア ボーイズの本の中にあるものです。100年以上も前からこの文は、ボーイスカウト運動の精神のもとになっています。だが、現在この本当の意味を理解しているでしょうか。カブスカウト活動やボーイ、シニア、ローバースカウト活動はスカウトユニフォームを着ただけの、"ハイキングクラブ"や"キャンピングクラブ"になってしまっていないでしょうか。1度創始者ベーデンパウエルのこのメッセージを味わってみて下さい。 P3.

最後のメッセージ

親愛なるスカウト諸君――君たちが，もし「ピーター・パン」の劇を見たことがあるならば，海賊の頭目が，いつも遺言を口にしていたことを思い出すでしょう。それは，彼の死期が来た時，手筥から遺言状を取出す時間がないことを，おそれたからです。私の場合もそれと同じことであるから，今私は死ぬのではないが，死ぬ日の来ることを思つて，諸君にさようならの一語を送りたいと思います。

これは諸君が私から聞く最後のものだと思つてよく読んで下さい。

私は最も幸福な生涯を送りました。ですから，君たちの一人々々もまた，幸福であるよう私は念じます。

神さまは，私たちを，一生幸福かつ楽しく暮らせるよう，この世界に下し給うたのだと私は信じます。幸福というものは，お金持になつたり，単なる立身出世や栄達に成功したり，思い通りな我がままができることではありません。幸福になる第一歩は，君たちの身体を少年の間に，健康かつ強壮にすることに始まります。そうすれば君たちが大人になつた時，お役に立つことができ，そのために生活をたのしむことができるのです。

自然研究というものは，この世界が，美と驚異とに充ち満ちていることを教えるでしょう。それは神さまが，そういう世界を君たちの快楽のために贈つて下さつたことを示します。君たちの得た物で満足し，そしてそれを最善なものにしなさい。ものごとの，暗い面をみないで明るい面を見なさい。

けれども，幸福を得る本当の道は，他の人々に幸福を与えることによつて得られるものです。諸君の見出した世界よりか，多少でもこの世界をよいものにしてあとに残すならば，君たちの死ぬ順番が回つて来た時，自分は自分の最善をつくしたのだから，とにかく，時を無駄にしなかつたという幸福を，感じながら満足して死ぬことができます。この道に「そなえよ　つねに」。そして，幸福に生き，幸福に死ぬこと。いつも，スカウトのちかいを身につけて――君たちが大人になつた後でも――そうすれば，君たちのすることを，神さまは助けて下さるのです。

君たちの友

ベーデン・パウエル・オブ・ギルウェル

Baden-Powell of Gilwell

(Baden-Powell of Gilwell)

(訳者付記：以上の一文は1941年1月8日，アフリカのケニヤでBーPが84才で死去した直後，発見された，と，米国版の本書は記している。日本流にいえば遺書，遺言状であろう。)

スカウト諸君！
古新聞・ダンボールを持って集会に参加しよう

ハウス長休の維持費の少しでもたしにしようと　今年の5月から初められた　古新聞、ダンボール、銹くずの集収運は　最近少しにぶくなっているように思います。

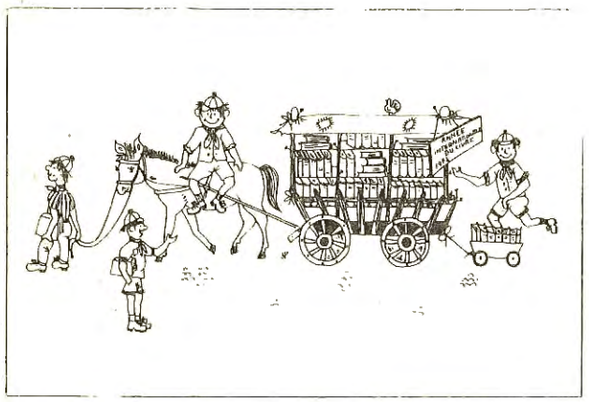
僕達スカウト活動にとって、スカウト　1人1人が少しでもその活動費のたしにしようと、何らかの形ではたらく事は、大切なことであると　B－Pも言っておられます。

そこで、日常集まりすぎて、家内でじゃまにもなっている古新聞、ダンボール、銹くずを持ちよって、皆んなの使う「ハウス長休」の維持費に当てようとして　この集収運動を行なっているのです。　さぁ　スカウト諸君！　班集会などで「ハウス長休」に来る毎に　少しでよいから　古新聞、ダンボール、銹くず、古雑誌等を持ち寄りお互いに我らの巣の為に協力し合おうではないか。

我々　長休スカウトの為に

ちりも積もれば山となるのだ！

尚、持って来た、古新聞などは、「ハウス長休」の裏の小屋の収集箱に入れて下さい。



ハウス長休文庫(ぶんこ)が出来ます。▶スカウト書籍を集めてまずはスタート◀

ハウス長休協議会では、38団15周年記念行事よりの資金をもとにして、スカウトにスカウトの本を知ってもらおうと、日本連盟発行の本を中心にとりそろえ、「ハウス長休文庫」を計画、まもなくスタートします。　育成会の皆様、スカウトが利用出来そうな本があったら、この文庫にプレゼント下さい。――原色図鑑など。

ハウス長休文庫はハウス長休内で利用。　貸(か)出(だ)しはダメなのです!!